

令和4年度 7月定例校長会 教育長講話 要約

(オンラインで開催)

1. 学校訪問を通して

先月より、今年度校長になられた先生や、新たに奈良市に着任された先生の学校で、子どもたちの様子を参観し、校長先生とも面談を行いました。昨年と一昨年は、コロナ感染に配慮して学校訪問を控えていたので、子どもたちの様子が、大変新鮮に映りました。

どの学校も落ち着いた授業が行われていて、多くの教室でICT機器が、本当に文房具の一つとして普通に使われ、「現場では、ICTの活用が定着してきている。」と実感しました。

2年前のタブレット導入の際は、各学校に大変ご苦勞をおかけしたことだろうと思います。しかし、子どもたちがICTを自分のものとして使いこなしている姿を見ると、ICTの活用が子どもの個別最適な学びに結びついているなど感じました。

一人1台端末の活用は、まだ始まったばかりです。各学校の優れた実践を周りの教師に広げ、どの教師も、質の高い授業となるよう、引き続きお願いします。

学校訪問では、ある校長先生から自己申告シートについて職員と面談するなかで、「これからのライフプラン」を聞いている、という話がありました。

私も教員の時には、様々な校長と出会い、人生の先輩として、また、教育の先輩として、経験に基づいた意見や助言、大所高所からのアドバイスは、自分の教師としての歩みに大きな影響を与えていただきました。

校長の職務は、「校務をつかさどり、所属職員を監督する」ことにあります。教員を管理し、指示待ちにしていくことではありません。一人一人の教職員を育てていく、という視点も大切にしてください。また、夏休みには、一人一人の教職員と向き合う時間をつくり、じっくりと話を聞く機会を設け、校長先生の経験も交えた話もしてください。

また、教育委員会に対して、「市教委と学校現場とに少し距離感がある。」「教育委員会こそ魅力的な組織であってほしい。」との意見もいただきました。教育委員会・学校が同じ方向を目指して進んでいけるよう努めていきます。

2. 生活調べアンケート結果から

このアンケートも、今年度で3年目を迎えました。今回の結果は、1年前の令和3年の1学期に実施した結果と比較すると、「悩みごとを話せる人や場がある」「困ったときに、学校の先生や家の人に頼ることができる」といった質問において、小中学校ともに、肯定的回答をしている割合が増えています。

各学校で一人一人に対して丁寧に接したり、子どもたちの心に響く取組をしたりするなどの積み重ねが、肯定的回答が増加した要因の一つだろうと思います。しかし、すべての子どもたちが SOS を発信できるということではないので、今後も、気を緩めることなく、継続して取り組んでください。

子どもの内面を見取ることは、大変難しいです。大人目から見て明らかに不安や悩みを抱えていることが見て取れる子もいれば、周囲の大人が、不安や悩みに全く気づくことができない子どももいます。子どもの実態の全てを完全に把握することは難しいですが、教員の「経験という視点」と、データ等の「客観的な視点」との両方をうまく活用することで、子どもの気持ちに寄り添うことや、必要な支援に繋げていくことができます。

アンケートは、子どもの実態を把握するための一つの手段です。今後とも教員が児童生徒の変化に気づいたり、個別のアプローチを行うための方法を検討したりするための一つのツールとして、このアンケートを活用してください。担任だけではなく、学校全体で情報共有をすることはもちろんのこと、家庭や地域も巻き込んで、子どもが不安や悩みを抱えたときに、安心して SOS を出すことができる環境づくりを進めていってください。

3. 児童生徒の心的不安への対応について

先週金曜日に、近鉄西大寺駅北側で痛ましい事件が起きました。市内のなじみのある場所で起きた事件であり、かつ、テレビなどでも繰り返しその場面が放映されました。こうした映像に何度も触れることで、児童生徒が心的に不安な状態になり、例えば睡眠がうまく取れない、突然涙が出てくる、身体がいつもより緊張するといった状態になることがあると言われています。

各学校では子どもの発する不安のサインを見逃さず、一人一人の心の不安に寄り添い、対応いただくようお願いします。

また、本市では、昨日から 15 日の金曜日まで、臨時の「市民こころの相談ホットライン」を開設しています。メンタルヘルスの維持については、子どもたちはもちろんのこと、教職員の皆さんや校長先生方も十分ご留意ください。

最後に、来週 22 日から夏休みに入ります。校長先生から、子どもたちにコロナ感染や熱中症予防はもちろんのこと、水の事故にも十分注意を呼びかけ、自分の命と健康は自分で守ることができるよう、語り掛けてください。

また、夏季休業中には、教職員がしっかり体を休める体制を学校全体で作成し、各学校の先生方、一人一人の健康にも、十分留意していただくようお願いします。